



令和7年度 東京都北区立王子桜中学校

令和7年9月 第6号

# 王子桜だより

校長 阿久津 光生

〒114-0002

東京都北区王子 2-7-1

Tel 03-5902-3155

共生の精神に満ち、国際的視野に立ち、大きな夢の実現のために限りなく向上に努める人を育てる。

教育目標 **自主 創造 飛翔**

## 《祝 3年生大竹さん・宮城さんバレーボール優秀選手賞おめでとうございます。》

3年生の大竹さん・宮城さんが北区中学校体育会バレーボール部より優秀選手賞を授与されました。本当におめでとうございます。3年間お疲れ様でした。



## 《祝 卓球部女子 都大会出場》

7月22日(火)江戸川スポーツセンターで開催された女子卓球の都大会に、先月の北区大会女子シングルスで見事、第2位となった鎌田さん、ベスト8になった太田さんが出場しました。都大会出場本当におめでとうございます。都大会でも大いに健闘し、今までの努力の成果を、思う存分発揮しました。3年間お疲れ様でした。



## 《祝 ソフトテニス部女子 都大会出場》

7月22日(火)小金井公園テニスコートで開催されたソフトテニス女子の都大会に、先月の北区大会団体戦で見事3位になった本校ソフトテニス部女子が出場しました。都大会出場本当におめでとうございます。都大会では炎天下の中、強豪校相手に大いに健闘し、今までの努力の成果を、思う存分発揮した素晴らしい試合でした。これからも頑張ってください！



## 《祝 ソフトテニス部男子都大会出場》

7月23日(水)駒沢公園テニスコートで開催されたソフトテニス男子の都大会に、先月の北区大会団体戦で見事3位になった本校ソフトテニス部男子が出場しました。都大会出場本当におめでとうございます。炎天下の中、強豪校相手に大いに健闘し、今までの努力の成果を、思う存分発揮した素晴らしい試合でした。3年生の皆さんはこれで引退となります。今までお疲れ様でした。これからも2年生を中心に頑張ってください！



## 《祝 吹奏楽部 東京都中学生吹奏楽コンクール 見事、ゴールド金賞 おめでとうございます！ 圧巻でした！》

8月9日(土)令和7年度 第65回 東京都中学生吹奏楽コンクールが府中の森芸術劇場ウィーンホールで開催されました。王子桜中は、B組で、曲は「リベラアニマス」です。当日演奏順9番目で本当に素晴らしい演奏で、鳥肌がたち、涙があふれるほどの圧巻の演奏を披露してくれました。

そして待ちに待った審査結果発表で、「王子桜中ゴールド金賞」のコールが会場内に響きわたると会場の王子桜中の生徒・保護者の皆さん等から大きな歓声があがり、互いに手を取り合って喜びと感激の涙が止まりませんでした。日々の並々ならぬ努力の結晶がついに、ゴールド金賞という素晴らしい結果を生んだ瞬間でした。本当に、本当におめでとうございます！そして佐々木先生のこれまでの熱心なご指導へのご努力と一人一人の生徒たちへの心温まる思いやりと優しさが、この素晴らしい結果を生んだのだと改めて感じました。また、平野先生をはじめ専門的なご指導をしてくださりました講師の先生方、いつもお子様をご支援くださいました保護者の皆さまに改めて感謝申し上げます。



《東京都中学校ラグビー秋季大会が行われました》8月20日（水）東京都中学校ラグビー秋季大会が玉川大学記念グラウンド（町田市）で開催されました。王子桜中は、私立駒込中と獨協中、都立小石川中との合同チームで強豪、明大中野中と対戦しました。勝利には至りませんでした。大いに健闘しました。2試合目は武蔵久留米東大和五連合と対戦し35-22で勝利しました。本当におめでとうございます。午後、猛暑の中での試合となりましたが、中学生とは思えない迫力で、チーム一丸となっている姿に感動しました。全力でぶつかって、1トライを狙う精神力と強靱な体力で、素晴らしい活躍をみせてくれました。猛暑の中、遠方まで応援に来てくださった保護者の皆さま、関係の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 《1年生 岩井臨海学園に行ってきました。》

1年生は、7月27日（日）～29日（火）の2泊3日で千葉県南房総市にある岩井臨海学園に行ってきました。この岩井臨海学園では海という大自然の中で、ライフセービングプログラムを通じて、自分自身を守る安全への意識や命の大切さを学びます。実際には、避難訓練から始まり、ボディサーフィン、レスキュー体験、ライフセービング競技などの様々なプログラムを体験してきました。現地ではライフセーバーの方や、教育指導員の方や、岩井学園の皆さまが、優しく丁寧に対応してくださり、大変有り難く思いました。

さらに、本校は、文部科学省から教育課程特例校（海洋教育（海育科））に指定されています。

この宿泊行事の中では、千葉県南房総市の岩井海岸での「海との出会い」があり、海の誕生からの歴史、海底の構造や海水、海流、潮汐、生物など多面的に「海の科学」を知ることができました。また、ビーチクリーン等を通して、海洋生態系の維持や汚染防止等「海の保全・利用」について、体験的な活動を通して海育科の学習を進めることもできました。

ライフセービング等の海での活動以外に、レク係のみなさんがみんなに楽しんでもらえるようにと、事前に色々な準備をしてくれました。初日はサメゲーム、クイズ、ジャンケン列車を、海での疲れも見せず元気いっぱい楽しんでいました。

2日目のレクは、「17秒転がし」というゲームでした。各班に材料が配られ、どのように使ってもよいのでプレートにビー玉を転がして、17秒間転がせるかを競い合いました。各班全員で頭脳を働かせて、17秒間の長い時間ビー玉を転がしてペットボトルキャップに見事に落とし込めるように、1時間以上かけて作成しました。どの班も何度も試行錯誤を繰り返して、失敗してもまたチャレンジして、真剣になって作り変えるその姿に感動しました。このような知的で自分たちの力で一つのものを作り上げようとする努力は、きっと近い将来、みなさんが商品の開発や今までにない発明をする力に繋がるはず。粘り強く、失敗しても諦めない1年生の姿に改めて素晴らしさを感じたレクの時間でした。レク係のみなさんのおかげです。本当にありがとうございました。

2日目の午後は、学園内体育館で応急手当の講習・訓練を受け、その後、浜に向かってライフセービングカリキュラム、海での最後の活動を行ってきました。

最後にビート板をバトン代わりにして、楽しいゲームをしてみんな大満足でした。振り返りが終わり、浜を離れるとき、もう岩井の海とはお別れだなあって、ちょっぴり寂しい気持ちになりました。海上から船で見守ってくださった方々に大きく手を振って感謝の気持ちを伝え、浜を後にしました！

2泊3日の岩井臨海学園の宿泊学習中、時間をしっかり守り、何事にも一生懸命頑張っていた1年生のみなさんの姿にとっても感動しました。実行委員のみなさんを中心に、役割分担された司会進行、あいさつなど、全てが大成功でした。とても楽しい、思い出に残る岩井臨海学園宿泊学習になりました。



## 【株式会社コーセーの創業】

世界に誇る大手化粧品会社 株式会社コーセーは、昭和 21(1946 年)3 月 2 日に北区王子で創業しました。当時日本は、その前年の 8 月 15 日、連合国側から提示されたポツダム宣言を無条件降伏という形で受託し戦争を終えました。この日を境に、日本は大きく変わり始めます。連合国総司令部 (GHQ) の指導のもとに、復興へのシナリオが次々と実行に移されるのでした。とはいえ、政治経済の中心である首都東京は焦土と化していました。このような戦後間もない頃の東京で、創業者の小林孝三郎は将来の日本の発展と自分が過去 34 年間にわたって関わってきた化粧品業界の隆盛を確信し、小林合名会社を設立。コーセーを北区王子に創業したのです。現在本社は、東京都中央区日本橋ですが、今も王子 2 丁目に研修センター、王子 1 丁目に営業所、栄町に研究所、堀船に美容専門学校があります。

小林孝三郎は、利根川をはさんで千葉県野田市と接する茨城県岩井市に明治 30 年 (1897 年) に生まれました。家庭の事情で明治 45 年、我孫子尋常高等小学校 (現在の我孫子市立我孫子第一小学校の前身) を卒業するとすぐに上京し、当時、下請け生産を主力とする化粧品メーカーの高橋東洋堂に入社しました。その時なんと 14 歳 9 ヶ月という若さでした。

最初の 10 年間は生産関係の仕事に携わり、自ら化粧品の開発や香水の調香も担当しました。この経験が後に営業として活躍したことやコーセーを創業してからも品質第一を貫き通したことなどに繋がっています。

1921 年 (大正 10 年) 高橋東洋堂は自社ブランドの発売に踏み切りました。その際に、孝三郎は製造部門から販売部門に異動となりますが、持ち前の豊富な商品知識を生かして、たちまち営業としての才覚を表し、40 代を迎える頃には、代理店や販売店の人々から「販売の神様」と称されるほどの信頼を集めました。

当時の孝三郎は、1 か月のうちおよそ 20 日間も全国の化粧品店を出張で訪れるような生活を 5 年以上も続けていました。日本各地へと営業に出向いていたため、駅名だけでなく、主な時刻表までそらんじていたというエピソードが残っています。「販売の神様」と呼ばれたのは、孝三郎が、化粧品に関する知識が豊富だったことに加え、いつでも販売店に寄り添って、共存共栄を願い活動していたからです。そして、1939 (昭和 14) 年には、販売部門の最高責任者にまでなっています。

孝三郎が営業部門に移った 1920 年代の化粧品業界は乱売が横行し、これに頭を痛めるメーカーや販売店も少なくありませんでした。このような現状を目の当たりにして、仕事熱心な孝三郎は定価販売を実現するための制度を発案し、実現させました。

やがて第二次世界大戦における空襲により、高橋東洋堂の所有する建屋なども火災で焼失するなどして、会社は一時解散となりました。戦後の混乱の中でも、変わらない人々の化粧品への欲求を見た孝三郎は、「理想の化粧品販売」への決意を新たにします。

そしてついに、化粧品業界に身を投じてから 33 年、数えて 50 歳のときに、コーセーを創業しました。戦後まもなく、「化粧品のチカラ」で日本を元気にしたい、人々に夢と希望を与える化粧品が必ず日本復興の一助となるという強い信念を持って起業したのでした。ちなみにコーセーの社名は、孝三郎の「コー」と、誠実の「セイ」を合わせたものでした。ギリシャ語で「宇宙、秩序、美」を意味する「コスモ」から転化した「コスメチコス (KOSMETIKOS)」の語源をあわせもつことがきめてとなりました。

コーセーを創業した 1946 年の日本は、戦後から 1 年足らずと、まさに復興に踏み出したばかりの時期でした。当時の東京では、現在のようなビルが立ち並び、インフラの整備された姿など想像することすらできないほどの焼け野原が広がっていました。食料も物資も不足し、人々の生活は混迷を極め、野菜や魚、生活用品などを非正規で売買、取引される「闇市」も存在する状況です。人々の生活は、とどまることのないインフレに見舞われ、闇市などでの物価は、1945 年～1949 年の間に 7～8 倍程度になったと



1913年(大正2年)頃 高橋東洋堂

高橋東洋堂の本社前 右端は大八車をひく小林孝三郎  
【提供 株式会社コーセー】



1947年小林孝三郎社長

1947年 小林孝三郎社長  
【提供株式会社コーセー】



1949年10月本社前(コーセー第2号車)

1949年 小林コーセーを設立  
【提供 株式会社コーセー】

も言われています。拡大する復興需要に供給が追いつかず、ますます「闇市」の取引は盛んになり、次第に粗悪な品質で価格に見合わない品が流通するようになりました。

孝三郎は、そんな不良品がヤミ値で取り引きされる時代を憂い、安全かつ安心して使える高品質な化粧品、真に価値ある化粧品を、日本全国どこでも同額かつ良心的に相応の価格で提供することにこだわりました。そして、生活に潤いや彩り、安らぎを提供するという化粧品や美容の使命を胸に刻み、少しでも人々の心が豊かになり、世の中が明るくなるよう努めることで、戦後の日本を元気にしていくという強い信念を持ち続けていました。

孝三郎が高橋東洋堂での33年間で築き上げてきた信頼関係は、創業時のコーセーを支える財産となります。創業時から何より品質を大切にしていた孝三郎は、原料調達に努力を惜しみませんでした。当時とはとにかく物資が手に入らない世の中でしたが、ある原料メーカーに孝三郎が高橋東洋堂の営業時代に親交のあった人物が資材副部長として在籍していたことにより、原料供給の突破口が開けたのです。当時、その原料メーカーは東京の荒川区にあり、そこから数キロ程度の距離にある北区王子であれば機動的に原料調達ができること、また当時はまだ工場建設の許可が下りるエリアだったということがあり、北区王子を創業の地に選びました。今のようなトラックはなく、原料は大八車に載せて運んでいた時代でした。そのため、製造現場と原料会社が近くにあることは譲れない条件の一つだったのです。

その他にも「小林さんが事業を起すなら信用できる。優先的に提供しよう。」という企業がいくつもありました。高橋東洋堂時代に「販売の神様」と呼ばれながら、孝三郎は常に取引関係にある全てのパートナーの方々を大切にしてきました。それがコーセーに対する信頼となり、そのような多くのパートナーによってコーセーのモノづくりは支えられ発展します。

このあらゆる人々と良好な信頼関係を構築しようとする姿勢はコーセーのDNAとして脈々と受け継がれており、現在では、『KOSÉ Beauty Partnership』という価値観として表現されています。

小林孝三郎が、日本の復興を願い、化粧品で人々に夢と希望を提供したいと起業したコーセーは、今年で79年、来年80年を迎えます。現在では、日本に留まらず、67の国と地域で事業を展開しています。“一人ひとりのきれいにきめ細かく寄り添うアダプタビリティの考え方に基づき、「3G」（グローバル、ジェンダー、ジェネレーション）を合言葉に、これからもコーセーは化粧品の可能性を追求しています。そして、誰一人取り残されず、笑顔と自信に満ちあふれる、心が豊かな社会の実現に寄与しているのです。

夏休みに入っすぐに株式会社コーセー本社にて、本校2年生が、王子出身で広報の実務責任者を務める岩崎様から、コーセー創業の歴史や今後の戦略・取り組み、発展について、わざわざ王子桜中学校用に資料を作成していただき、分かりやすく丁寧に説明をしていただきました。大変勉強になり、まさに生きたキャリア教育を授けていただきましたことに改めて感謝申し上げます。

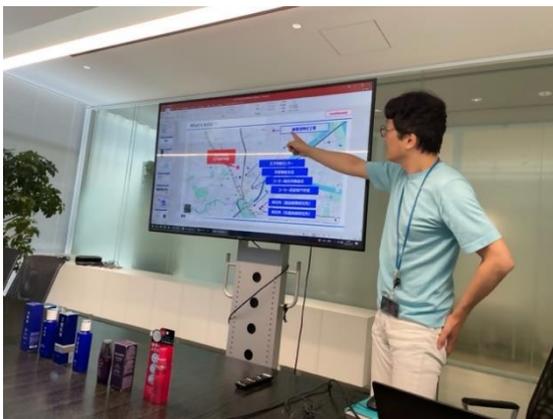
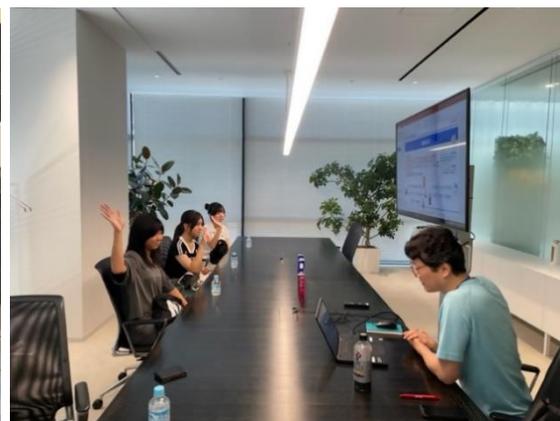
株式会社コーセーの躍進については、次号に掲載いたします。



1957年 本社完成（船舶）※看板なし

東京都北区堀船に本社社屋落成

【提供 株式会社コーセー】



王子桜中生 日本橋本社を訪問